



International Exchange in South America 2010

Daiyu Takeda Sensei meets Chile / Uruguay / Argentine Aikido members



南米で出会った合気心

東戸塚 / A.K.I.本部 武田大雄

2010年11月、3回目の南米渡航は始めにチリ、ウルグアイ、そしてアルゼンチンを周り、それぞれの合気道家達とふれあってきました。昨年は矢島先生、金さん、辻くん、泰知くんと同行し、人々の暖かさや日本には無い格別な南米のお話を耳にした方も多々あります。皆さん御周知の通り、ラテンの情熱のこの3国は、お話しでは伝えきれない感動が山ほどあります。Facebook (webのコミュニティサイト) をご利用の方へはかいつまんで写真や動画でご紹介いたしますので、ここでは割愛させていただきます。欧米にない素晴らしい素晴らしさに興味のある方は大雄までお声掛けください。

2番目の訪問国、ウルグアイを訪れた際の事です。国土は日本の半分、その9割が牧場という環境。牧畜、食肉加工、輸出、皮革製品加工に頼り、人口はわずか346万人ほど、サッカー王国でもあります。食事は毎日肉肉肉(に苦?)といった具合で、始めは驚いたものの、途方も無く広い牧草地で育ち、ストレスフリーな牛は、とにかく新鮮で質が良いのでしょわか!? 全然もたれを感じがありません。肉好きな方へはぜひお勧めしたい国です!

モンテビデオ AIKIDO (道場名) には、ダンサー・フォトグラファー・イラストレーター・セラピストなど、芸術肌の方が多くみられます。そのせいか、稽古も相手を投げ飛ばすことよりも、互いに同調して磨き合う『波長合わせ』で汗を流し、真剣にかつ楽しんで日々稽古しています。そして同調から得られるエネルギーは、新しい世界への想像力や元気の源となり、国内外で精神的に活躍しています。

セミナーも含め、私が1週間この道場へ足を運んでいる間に、いつも最後まで残る白帯で50からみの男性が目に残りました。入門してまだ3ヶ月に満たないようですが、『このように素晴らしい合気道に巡り合えて感謝しています』と、黙々と稽古前の畳や廊下を拭き、稽古後みなが使用したシャワー室や更衣室、トイレに至るまで、ピカピカになるまで1人で清掃して帰るのです。『使ったところは、使う前よりもきれいに返す』、当たり前前の事として小さい頃に教わりましたが、そのような精神や感謝の心をなおざりにしてしまいがちな自分にハッとしました。

一方、道場主のニコラス先生は、『9年目となるモンテビデオ AIKIDO も、投げるテクニックばかり求めていた2年前までは、自分が1人で掃除をしていても、50人いた生徒の誰一人として道場に協力しようとはせず、頼んでも自分はお金を払ってはお客さまだからと言われ、和を感じることは無かった』と言います。

この白帯の男性に一杯ご馳走になる機会がありました。ウルグアイ NAVY (海軍) の将校だそうです。軍船に乗り、世界中を廻って見聞を広めてきた末、軍人だからこそ一倍平和への願いが強くなったと言います。ある日、翁先生と合気道についての記された一冊の本と出会い、合気道に興味を持ってから、道場を探して長い時間を経てモンテビデオ AIKIDO に行き当たったそうです。NAVY にも合気道はあるそうですが、平和や和とは縁遠く、『NAVY は自国のみならず、世界の平和を守り、創り上げてゆく立場であるべきなのに、そこにある合気道は相手を倒すことに捕らわれすぎています。自分が考える本当の合気道ではない。この道場を探し当てた幸運には、心から感謝している』と暖かい笑みを浮かべていました。

現在の、混沌とした世界の中で合気の結果を役割を心の中に留め、まずは身近な道場内を整えつつ日々稽古に励むこの男性に、地球の裏側で同じ道を歩む仲間がいるのだと心打たれた夜でした。

稽古で体を練り上げること、技術を向上させることなどは、道場の中の合気道として必要ですが、外の世界へ一歩踏み出したとき、または自分と異なる世界と触れ合わなくてはならなくなつた時、日々道場で磨いている『何か』をどう活かせるだろうか…。そんな気持ちに胸に、楽しく充実した南米を後にしました。